

かめだ 都 夫 亀田いくお県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

市民の声を生かして県政を改革します

鴨川整備事務所 の統合で質疑

■鴨川市特集■ 2月県議会一般質問



2月県議会一般質問に登壇した亀田郁夫県議
(3月7日県議会議場)

南房総の「海浜観光都市」鴨川市は、地方分権や合併など変革の時代を迎えています。亀田郁夫(かめだいくお)県議は鴨川市選挙区選出・1期目。市民の生活視点を大切に市民の声を生かした県政改革を進めています。真面目な政治姿勢が人望を集めているうえ、「識見ある政策力」で施策提案、「論理的な発言力」で議会質疑、「着実な行動力」で現地視察から地域課題の解決に活躍しています。特に「観光施策」などの地域課題に取り組み、「個性豊かで活力ある鴨川を築く」と行動しています。

そんな亀田県議は、2月県議会一般質問に登壇し「鴨川整備事務所の統合」について県側を追及したほか、県都1時間構想の「道路問題」「森林伐採」について質疑。さらに2008年度新年度予算を審議する重要な予算委員会でも質疑を行い、県当局の姿勢を質しました。

住民サービスに配慮を

亀田 行政改革が進められている中、県は今後、出先機関の見直しについて、どのように考えているのか。また、鴨川整備事務所を統合する具体的な理由は何か。知事 地方公共団体には、「最少の経費で最大の効果を挙げる」ことを目的に、常に簡素で効率的な組織体制づくりが求められています。千葉県も財政再建という目的もあり、いろいろな行政改革を進めてきました。出先機関について「IT

化の進展に伴う事務処理の効率化・合理化、市町村合併の進捗や県と市町村との役割の見直し等を踏まえ、地域の特性に応じた機能強化等も含め、組織のあり方等について検討し、再編を進める」としています。

これらを踏まえ、鴨川整備事務所は、電子入札の導入状況や事業規模等を総合的に勘案し組織の見直しを行うこととしました。鴨川出張所は残るが、入札事務その他は安房地域整備センターに統合します。IT、

利便性確保へ出張所設置

亀田 出先機関の見直しによって、鴨川周辺部では、利便性の低下による民間の不効率化が危惧されるが、どう考えているのか。

県土整備部長 県民サービスの低下を招くことがないよう十分に配慮をすることが必要だと認識しています。鴨川整備事務所の統合においては、県民の利便性を確保するため、鴨川出張所を設置し、引き続き鴨川市の区域に係る道路、河川等の整備や管理に関する業務を行うとともに、占用使用許可、境界確定の申請等を受け付けます。

亀田いくお・PROFILE

- 経歴○
- 昭和27年 2月 鴨川市生まれ
 - 昭和51年 3月 立正大学経営学部卒業
 - 昭和56年 10月 亀田総合病院理事
 - 昭和60年 9月 ケイアイエス代表取締役
 - 平成16年 3月 鴨川市議会議員初当選
 - 平成19年 4月 県議会議員初当選
- 現職○
- 県議会 商工労働企業常任委員会委員
 - 千葉県 環境審議会委員
 - 自民党 政治調査会

県政や鴨川市について、お気軽にご相談ください。

亀田いくお 県議事務所

〒296-0041 鴨川市東町665
TEL.04-7099-0190
FAX.04-7099-0191

3千万超へ農業経営支援

2月県議会予算委員会質疑



県議会議場で行われた予算委員会(質疑者席=中央)=は質問に立つ亀田いくお県議

亀田 中山間地域の

ような経営耕地規模が小さい地域では、具体的にはどのようにアグリトッププランナーを育成するのか。併せて、小規模農家への支援をどのように進めていくのか。

農業改良課長 アグリトッププランナー育成支援事業は、経営耕地面積の大小に関わらず、施設園芸、農産物の加工、観光農業、畜産などで年間販売額3千万円以上の販売を目指す農家等を育成しようとするものです。

また、小規模農家等の経営安定を図るため、平成19年度から、新品目・新商品の開発や直売所を活用した地域特産物の生産・販売などの取組を支援しており、平成20年度も必要な予算措置を講じたところで。

亀田 アグリトッププランナー

育成支援事業の対象とならない小規模農家等支援事業の内容はどのようなものか。

農業改良課長 小規模農家等支援事業の予算額は780万円で新商品の開発推進や直売所の販路拡大です。

亀田 3年間でアグリトッププランナーの育成目標数はどのくらいか。

農業改良課長 県内の年間販売額3千万円以上の経営体は、農家数が1103、生産法人等が170、合計で1273経営体ですが、これを22年度までに1500経営体とすることを目標

としています。

亀田 現在、3千万円以上の農家の方をどのように支援していくのか。育成支援事業について、農家への周知はどのように行うのか。

農業改良課長 現在、3千万円以上の農家等の方々は、今回のアグリトッププランナー育成支援事業では、対象として考えておりません。農家の周知にあたっては、県のホームページや各種広報紙の活用、また、県農林振興センターの普及職員や市町村等関係機関を通じて行いたいと考えています。

亀田 米加工品の生産も行う水稲生産農家にアグリトッププランナー育成支援事業を活用できないか。

農業改良課長 米加工品の生産により販売額向上を目指す農家についても、経営改善・販路拡大等の経営力向上のための経営サポートへは活用できます。

なお、施設整備等のハード事業や生産技術の指導については、助成目的としていません。

山間活性化へ「観光農業」推進

亀田 山間地域の農業を活性化するために、観光農業についてはどのように進めていくのか。また、中山間地域において、この3年で実施された支援事例はどのようなものがあるのか。その効果はどうか。

安全農業推進課長 中山間地域では小規模な農家が多いことから、温暖な気候、豊かな自然や景観、地域の農水産物などの観光資源を活用して、付加価値の高い観光農業を展開していくことが重要であると考えています。そこで、県では、

○観光農園等におけるトイレなど簡易な施設整備への助成
○観光農園の経営や体験指導のできる人材の養成
○年間を通じて切れ目なく集中的に県産品のPRを行うキャンペーンなどを、市町村、観光協会、農協、NPOなどと連携し、見て・体験し・食べて・交流ができる観光農業を推進していきます。



予算委員会質疑者席の亀田いくお県議

県都1時間構想圏域67%を達成

亀田 県では県都1時間構想をどのように認識しているのか。

県土整備部長 県土の均衡ある発展へ、県内の主要都市から県都千葉市まで、1時間で到達できるよう昭和61年に掲げたものです。

亀田 県都1時間構想の現在の進捗状況はどうか。

県土整備部長 館山道が全線開通、鋸南町、旧富山町が新たに圏域に加わり、現在67%となっています。

亀田 県都1時間構想を進めていただきたい。

県土整備部長 国道410号久留里馬来田バイパス及び県道千葉鴨川線片倉バイパスの進捗はどうか。

久留里馬来田バイパス及び県道千葉鴨川線片倉バイパスの早期完成を要望する。

要望 亀田 国道410号久留里馬来田バイパス及び県道千葉鴨川線片倉バイパスの早期完成を要望する。

2月県議会一般質問

50年以上の森林伐採は無条件で

亀田 間伐の目標値は少なくとも国と肩を並べる数値にすべきと思うがどうか。

農林水産部長 1月に策定した計画5150杉の間伐を今後5年間の目標値として設定しました。

亀田 45年以上の壮齢林の機能低下と対策はどうか。

農林水産部長 県の15%にあたる国・県有林で間伐遅れでの機能低下はない。今後は複層林化や長伐化を視野に、壮齢林も伐採します。

要望 亀田 教育、医療等の幅広い目的で森林の活用をしてほしい。

財源不足の当初予算を追及

2月定例県議会最大会派自民党の代表質問に岡村泰明県議(四街道市選出・4期目)が登壇しました。

岡村県議は、財政問題、私学助成、医療の充実などを中心に話し、うち、乳幼児医療では、自民党が要望を続けてきた就学前までの通院助成は実現しましたが、なおの充実を求めました。

鴨川のために県議活動
ふるさと鴨川を愛し

亀田いくお県議